

キリストへの時間

「キリストへの時間」協力委員会報

ラジオ放送による伝道のために

「キリストへの時間」協力委員会委員長 田口博之

9月6日、主の日の朝にショックなことがありました。その日は自身が担当する放送の日でしたが、「キリストへの時間」を聴いてショックを受けたというではありません。引き続き6時45分からは「東本願寺の時間」が放送されるのですが、何気なく聞いていると、「9月で終了します」という挨拶が語られたのです。「感謝と共に一抹の寂しさを感じています」とも。

番組終了の理由について、「聴取率は開始当初6%。だがラジオ離れが進み、近年大きく落ち込んだ。年間千数百万円かかる制作費の負担も重く、幕を下ろすことに。」と報じられています(9月23日配信「朝日新聞デジタル」より)。この知らせは、全く他人事とは思えませんでした。「東本願寺の時間」は、「キリストへの時間」と同じく、民間放送開局とほぼ同時に始まった番組ですが、私たちも同じ課題を抱えているからです。

「キリストへの時間」は、米国南長老派ミッションの放送伝道事業として1952年10月に開始されました。最盛期には、中部日本放送(CBCラジオ)をキー局として国内6局、極東放送を通じてマニラと沖縄に、中南米在住の日本人に向けて「アンデスの声」という放送事業を展開していました。1967年には、南長老教会、日本基督改革派教会、日本基督教団の三者による「キリストへの時間」協力委員会が組織されます。その頃の年間予算は1千万円ほどでしたが、資金はミッションに依存したものでした。1ドル360円とドルの強い時代でした。

ミッションの資金援助が打ち切られた時に、放

送を終了するという選択もありました。しかし、協力委員会は放送伝道の継続を決断しました。自給独立といえは聞こえは良いのですが、運営のためには多くの支援が必要となります。「協力委員会報」を用いての献金要請が始まりました。第1号の発行が、1983年10月30日、当時の篠田潔委員長が「ラジオ放送による伝道のために」と巻頭言を書いています。以後年に2回、会報を発行していますが、第65号となる本号の巻頭も、同じ表題とさせていただきました。皆様をお願いしたいことは、「ラジオ放送による伝道のために」祈り、支え、聴いてください。このことに尽きるのです。

ラジオ放送を取り巻く状況は、放送開始当初とは全く変わっています。テレビの時代から、今はインターネット全盛期です。ラジオ伝道が続けることにはいかなる意義があるのか。ただ献金を募り、これまでと同じような放送を続けさえすればよいなどとは思っていません。支援して下さる方々のご意見、協力関係にある金城学院、名古屋学院、岐阜済美学院とも協議しながら、ラジオ伝道の新しいかたちを求めたいと考えています。

数か月前、CBCの方と率直な話し合いをさせていただく機会がありました。話し合いをしている中で、「放送が終わるなんてことになるよ、ショックで死んじゃう人がいるんじゃないですか」と、真面目に言われました。「キリストへの時間」が愛され、期待されていることを感じました。放送の主体である私たちの側が、望みを失ってはならないことを、強く思う時となりました。

「降りていく生き方」

日本キリスト改革派 関キリスト教会牧師 橋谷英徳

しかし、あなたがたの間では、そうではない。あなたがたの中で偉くなりたい者は、皆に仕える者になり、いちばん上になりたい者は、すべての人の僕になりなさい。人の子は仕えられるためではなく仕えるために、また、多くの人の身代金として自分の命を献げるために来たのである。

マルコ 10 章 43～45 節

ちょうど今から 3 年前くらいのことです。私は、北海道、日高地方の浦河町という町にあります「べてるの家」を訪ねました。べてるの家は、統合失調症を中心とした心の病を負っている当事者の方々の共同体、地域福祉活動の拠点です。キリスト教主義に立つ施設です。

ここでは心の病気を持っている人たちが互いに思いやり、助け合いながら、さまざまなことをして自立した生活を送られておられます。書物などをおして、その存在を知って一度、訪ねたいと思っていました。幸い願いがかなって、短い期間でしたが、その活動を見学させていただきました。このべてるの家への訪問は、私にとりまして、忘れることのできない経験になりました。

浦河に着いて、べてるの家の事務所に伺いました。階段を上って二階に事務所があります。この事務所は、結構広いのですが、正直申しまして、あまりきれいとは言えないのです。けれども、そこには、なんとも言えない穏やかな空気感が漂っていました。入ってまず目に飛び込んできたのは、白い紙に大きな文字で書かれた、壁に貼り付けられているさまざまな短い言葉です。

「がんばらない」「安心してさぼれる職場づくり」「手を動かすより口を動かせ」「偏見差別大歓迎」「弱さを絆に」「公私混同大歓迎」「利益のないところを大切に」「そのまんまがいいみたい」「苦労を取り戻す」。べてるの家の理念をあらわすことばで、

源は聖書です。

これらのことばは、常日頃、私たちの耳に入ってくるメッセージ、理念、生き方とは真逆のことです。「がんばれ」「サボるな」「口を動かすより手を動かせ」、「そのままではダメ、自分を変えよ」、こういうことばを見聞きしながらみな生きているのではないのでしょうか。

私が、このべてるの家を訪れたのはほんの短い期間でしたが、ここを訪ねることによってとても幸いな経験を与えられました。正直、慰められました。癒されました。もっとここに、い続けたいとさえ思いました。それは私だけではなく「べてるの家」を訪ねた、多くの人たちが経験されるようです。

みな口をそろえるようにして「癒されました」というのです。なぜでしょうか。

今の私たちの社会には、多くの困難があります。多くの人たちが、心を病んでいたり、傷つきながら生きています。自らの命を絶ってしまわれる人もあります。なぜ、このようなことが起こり続けるのかということをしばしば思います。たとえば、心の病であるなら精神医学によって、さまざまな解明や説明がなされています。それはそれで一つの答えでもあると思います。しかし、べてるの家を訪ねることによって、私が気づかされたことがあります。それはもしかすると、心病める人が病んでいるというのではなく、この私たちの生きるこの社会の方が病んでいる、おかしくなっているのではないかということです。本当に病んでいるのは、べてるの家の人たちではない、実は病んでしまっているのは、私の方ではないかということです。

このべてるの家が、大切にしていることばにも

う一つ、こんなことばがあります。「昇る人生から降りる人生へ」あるいは、「降りていく生き方」、こういうことばです。あるとき、べてるの家のシンポジウムが東京で開かれました。そのときに、この降りていく生き方ということが、語られたそうです。そこに女性の小説家の田口ランディさんがおられて、こんな発言をなさったそうです。「私は降りたくありません。一生懸命上ってきたし、これからも降りたいとは思わない」。するとべてるのメンバーの潔さんがこう言われたそうです。「ランディはジョーキだな。いつでも、辛くなったら、べてるに来ていいからな」。それを聞いて、「病気？ 私は全然、精神的に病んではないし、医者にもかかっていないし、申し訳ないけれど、かなり健全に生きていると思うよ」と答えられた。すると潔さんは、「ははは、だからジョーキなんだべ」。ランディさんは、このときはその意味がわからなかったけれども、ずっと後になってから、このことの意味がわかるようになられたとあるところに

お書きになっておられました。

主イエス・キリストはあるとき弟子たちにこう言われました。「あなたがたの中で偉くなりたい者は、皆に仕える者になり、いちばん上になりたい者は、すべての人の僕になりなさい。人の子は仕えられるためではなく仕えるために、また、多くの人の身代金として自分の命を献げるために来た」。

主イエスは、「降りたくなんかない、もっと上にもっと上に」と生きようとしていた弟子たちを、「降りていく生き方」に招かれたのです。ラジオをお聞きのあなたはどうでしょうか。上ばかり向いて生きるジョーキにかかっておられないでしょうか。キリスト教会もまた、べてるの家でありたいと思っています。どうか、お近くの教会に足を運んでください。そこで主イエス・キリストと出会ってください。きっとそこに癒しがあります。

10月4日 放送分



『仕事場便り』

毎日、お便りやメールを頂きます。先日は、金城学院大学の卒業生の方からお便りをいただきました。『・・・。キリストへの時間の放送を金城も支援していることを知り、何だか誇らしく思いました。私は中学から大学までを金城で過ごし、社会に出て知ったのですが、沢山の先輩たちが広く活躍されていることでした。以前、C B C放送の局の中にも居られると聞いた記憶があります。そうして、今は2人の子供の母親です。男の子ですから金城には入れませんので、名古屋学院に行っております。母校には殆ど訪ねることもなく過ごしてきましたので、思い切って車を運転して、白壁町の中高を見に行きました。懐かしさで、胸がいっぱいになりました。そうして大学へと向かいました。あの急な坂道、瀬戸電・・・。大きく伸びた木々が、私を迎えてくれました。今、改めて、母校で過ごした青春に感謝しております。・・・。』

放送は、このような形でも用いられているのですね。そうして、このようなお便りをいただいで、励まされております。

フォローアップ・会計担当 長村秀勝





「キリストへの時間」放送予定 2016年1月～6月

1月

- 3日 保科義朝 (日本基督教団熱田教会信徒)
 10日 保科義朝 (日本基督教団熱田教会信徒)
 17日 佐野悠紀子 (日本基督教団枇杷島教会信徒)
 24日 佐野悠紀子 (日本基督教団枇杷島教会信徒)
 31日 田口博之 (日本基督教団名古屋桜山教会牧師)

2月

- 7日 小室尚子 (金城学院宗教総主事)
 14日 小室尚子 (金城学院宗教総主事)
 21日 落合建仁 (金城学院大学宗教主事)
 28日 落合建仁 (金城学院大学宗教主事)

3月

- 6日 木下裕也 (日本キリスト改革派名古屋教会牧師)
 13日 木下裕也 (日本キリスト改革派名古屋教会牧師)
 20日 梶浦和城 (日本キリスト改革派春日井教会牧師)
 27日 梶浦和城 (日本キリスト改革派春日井教会牧師)

4月

- 3日 横山良樹 (日本基督教団半田教会牧師)
 10日 横山良樹 (日本基督教団半田教会牧師)
 17日 阿部 啓 (日本基督教団豊橋中部教会牧師)
 24日 阿部 啓 (日本基督教団豊橋中部教会牧師)

5月

- 1日 二宮 創 (日本キリスト改革派太田教会牧師)
 8日 二宮 創 (日本キリスト改革派太田教会牧師)
 15日 西堀則男 (日本キリスト改革派岐阜加納教会牧師)
 22日 西堀則男 (日本キリスト改革派岐阜加納教会牧師)
 29日 相馬伸郎 (日本キリスト改革派名古屋岩の上教会牧師)

6月

- 5日 沖崎 学 (金城学院高等学校宗教主事)
 12日 沖崎 学 (金城学院高等学校宗教主事)
 19日 後藤田典子 (金城学院中学校宗教主事)
 26日 後藤田典子 (金城学院中学校宗教主事)

「キリストへの時間」協力委員会メンバー (2015年12月5日現在)

田口博之 (委員長・教団)、長谷川潤 (書記・改革派)、相馬伸郎 (改革派)、横山良樹 (教団)、沖崎学 (金城学院)、楠本茂貴 (名古屋学院)、西島麻里子 (岐阜済美学院)、長村秀勝 (会計・改革派)

アナウンサー：桑原廣子 (教団金城教会信徒)、小幡美智子 (改革派豊明教会信徒)、大野典子 (改革派太田教会信徒)

お詫び：64号3頁 献金内訳の名古屋学院関係の学法・名古屋学院 (協力金) 100,000円が抜けておりました、大変失礼いたしました。

発行所 「キリストへの時間」協力委員会 〒461-0018 名古屋市東区主税町 4-86
 連絡先 〒465-0065 名古屋市名東区梅森坂 4-101-22-207 TEL・FAX 052-893-9585
 E-mail: osamura@kind.ocn.ne.jp

編集発行人 田口 博之 郵便振替 00880-1-70404・キリストへの時間

CBC ラジオ「キリストへの時間」(1053kHz) 毎週日曜日 朝6時30分～6時45分放送